

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500237		
法人名	(医)加茂 医院		
事業所名	グループホーム やすらぎの丘		
所在地	佐賀県伊万里市大坪町甲2269-6		
自己評価作成日	平成28年10月26日	評価結果市町村受理日	平成29年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成28年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①家族様の面会が多いので、時間をかけて要望を聞く事ができ、入居者様の事も細かく報告が出来る事で信頼関係が深まっています。②地区夏祭りの参加やボランティアの人を受け入れる事で地域との関わりも出来ています。③週1回の主治医の往診と24時間の医療連携ができています。④本人様、家族様の希望があれば看取りを行います。⑤インシュリン注や在宅酸素の方の受け入れができます。⑥四季折々の行事食やドライブ、誕生日もリクエスト食を提供しています。⑦年2回の家族会の開催。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅地に位置し、自然に囲まれた広い庭は、散歩をしたり、座ってゆったりとした時間が過ごせるように工夫されている。室内は書道や写真が飾られ、明るい空間がつけられている。また、ターミナルケアも希望に応じて行っており、母体病院と24時間体制での連絡など、状態に応じて連携し、医療面でも安心した生活を送ることができる。運営推進会議や地域行事への参加、地域の保育園や読み聞かせなどのボランティアの慰問など、地域との交流する機会づくりがなされ、地域で支えあるような関係づくりができています。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	Aユニット	Bユニット		Aユニット	Bユニット
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り前の唱和を実践している。唱和をする事により、意識付けが出来、ケアに繋がっている。	毎朝申し送りの時理念の唱和を実施し意識して介護に取り組むように努めている。月間目標や年間目標も掲げている。	朝の申し送り時、理念の唱和を行い実践に活かすように取り組まれている。出来ていないところを目標に掲げ、実現できるように努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の夏祭り参加や地区のボランティアの訪問があり、楽しみを持って過ごされている。	地区の掃除や夏祭りに参加している。夏祭りは事前の会議や準備片づけまで手伝っている。	清掃活動への参加や散歩時に住民との挨拶を通じて交流がなされ、永年の取組から、夏祭りの参加では準備から関わるなど良い関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の夏祭りの参加やボランティアの方の訪問時等に認知症の事で困っておられ時には、いつでも相談して下さい。と伝えている。	地区の高齢者の方がたのボランティアを受け入れ、認知症の人の生活を見て頂き、職員がどの様に関わっているか、どの様な介護をしているか、伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方が県グループホームの研修に参加された。入居者様の家族様が家族の思いを発表された。	2ヶ月に1度開催している。家族会や県グループホームの研修会に参加していただき、認知症の勉強ができた。	2か月に1回開催し、入居者の生活状況の報告だけでなく、家族会の発表や出前講座を行いサービス向上に活すように取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の時に、今の現状やケアの取り組みを話している。運営推進会議に参加されるので、事例や現状を伝えている。	家族会時に事例報告や行事報告を行い参加してもらった。	必要時に相談をしたり、行事の案内等日常的に連絡相談を行える関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のオムツ外しがあられるので、つなぎ服を着て頂いている。家族の承諾もあり、3ヶ月に1回検討会もしている。	見守りを強化し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を通して身体拘束をしない取り組みについて理解を深め、身体拘束が必要と判断した場合、家族へ説明同意を得て対応されている。現在つなぎ服を使用されている。	引き続き研修や拘束の解除の検討会を行い、つなぎ服の代替性について検討し、身体拘束に頼らない取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待防止の大切さを学んでいるし、月1回のヒヤリはつと会議も行って、ユニット会議でも話合っている。	外部の研修に行った。打撲痕が出来やすい入居者様に対しユニット会議で検討会を開きその結果を家族に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている人はいないが、社協の安心サポートを利用されているので、社協の方との関わりもある。	ユニット介護で成年後見制度について管理者より学ぶ機会があった。相談はあったが、お孫さまが弁護士をされており、ご家族で契約をけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はホーム長が家族の方に1時間ほど時間を掛けて話しをし署名捺印を頂いている。改定については利用請求の際別紙を添付し、質問等はホーム長が対応する様になっている。	契約の際はホーム長が家族の方に1時間ほど時間を掛けて話しをし署名捺印を頂いている。改定については利用請求の際別紙を添付し、質問等はホーム長が対応する様になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に意見箱を設置している。家族会を催し意見交換を行い要望等を尋ねている。	年2回の家族会を開き家族との交流を行っている。県GHの研修で発表をして頂いた。	玄関に意見箱が設置されている。また、面会時の近況報告や年2回の家族会を通して、意見を言える機会作りが行われている。出た意見は職員間で共有され、サービスに反映できるよう検討され、質の向上に努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議(主任以上の会議)やユニット会議でスタッフの意見を聞き見直し等も行っている。	定例会議(主任以上の会議)やユニット会議でスタッフの意見を聞き見直し等も行っている。	定期的に会議や日頃からの意見交換が行われ、必要に応じて個別に話をする機会を設けるなど、言いやすい工夫をされている。管理者は出た意見や要望について、迅速に対応するように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各役職手当や資格手当もある。	各役職手当や資格手当もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあった外部研修を受け、研修報告書を提出し、全員が回覧し現場に生かしている。	職員に合った外部研修に参加している。職員が希望する研修があれば受ける事もできる。研修報告書を出して全員が回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊万里市のコミュニティーケア会議に参加し、事例検討の話し合いをし、他の施設の方の考えをくく事ができた。	伊万里市のコミュニティーケア会議に参加し、事例検討の話し合いをし、いろいろな施設の方の意見も聞く事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族からの要望を聞くことと、入居されて本人様から聞きとりと1カ月様子をみて当面の介護計画を立てている。	契約時に家族からの要望を聞くことと、入居されて本人様から聞きとりと2カ月様子をみて当面の介護計画を立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、重度化した時の話や面会、外出の事等詳しく話もするし、家族の要望も聞いて、職員に周知している。	契約時に、重度化した時の話や面会、外出の事等詳しく話もするし、家族の要望も聞いて、職員に周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の要望や本人様の困っておられる事をリサーチしユニット会議で話し合い情報の共有をしケアを行っている。	家族様の要望や本人様の困っておられる事をリサーチしユニット会議で話し合い情報の共有をしケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気の合う方同志でテレビを観たり、職員と一緒に外に出て花見や食事をして楽しんでいる。お盆拭きやゴミ袋の名前を書くのを手伝って下さる。	職員と一緒にレクリエーションをしたり、ドライブに出かけている。普段も談話の中で傾聴、共感、受容を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族会でぜんざいやホットケーキを入居者様と一緒に作って楽しまれた。	年2回の家族会でぜんざいやホットケーキを入居者様と一緒に作って楽しまれた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	娘様の面会や外出をされた。お正月は娘様の家で過ごされる。	以前からの行きつけの美容院に定期的に行かれパーマをかけたり、染めたりされている。娘様と外出され好きな食事をしてこられる。	馴染みの美容室へ行ったり、入居前に住んでいた近所の方の面会があり居室でゆっくり過ごしていただくなど、来訪しやすい雰囲気作りに努められ、関係が途切れないように取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室に遊びに行かれ談話されたり、一緒に塗り絵をしたりして過ごされている。	レクリエーションに参加したり、お茶の時間をゆっくり過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町であった時は、おしゃべりをし、ご家族様の近況を話したりする。	町であった時は、おしゃべりをし、ご家族様の近況を話したりする。自宅にあった、タオルを持って来て下さった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向がある人は自分の思う様に過ごしておられる。意志が伝えられない人はその方体調で対応している。	家族の要望もあり、朝本人様が置きたくなるまでゆっくり寝て頂いている。	意向や要望を伝えられる方が少ないため、日頃の様子や生活歴等から情報を把握し、気持ちをくみ取るように支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お元気な時は、生け花をされていたので、ご自分で庭に出て花や葉っぱを摘んできて、花瓶に生けられる。	夜間服を何回も着替えられ、床に脱ぎ棄てられるが、その都度スタッフが対応し、パジャマに着替えて頂いたり、服につまづかない様に片づけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ラジオ体操や貼り絵等をして、出来る人はして、したくない方は他の事をおられる。全介助の方も毎日の看護師の訪問で健康管理も出来ている。	ラジオ体操をしたり、トランプが出来る方は参加されるが、出来ない方は、新聞を読んで話をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングする時は、必ず家族の意向を担当者が聞く。意向が言える方は本人様に聞いている。ユニット会議で全員で話し合いケアの方法を決めている。	モニタリングする時は、必ず家族の意向を担当者が聞く。ユニット会議で全員で話し合いケアの方法を決めている。	入居者・家族の意向を聞き、ユニット会議で話し合いながら、現状に即した計画になっているか見直され、必要に応じて変更をしている。変更後の計画は職員間で共有し実践に努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午後からは、中々入浴が難しい方が職員の情報の共有により午前中に入浴して頂く事で清潔が保持されている	日中起きておられる時間が増えてられたので、レクリエーション等に参加していただく様なケアプランにしたが、本人様が興味を示さなくなられ変更した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急きょ病院受診が必要であれば職員も職員が付き添いを行った。	家族の意向で以前からの係りつけの病院に月1回職員がお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の夏祭りに当ホームも出店し入居者様と地域の方との交流もあり、楽しまれている。	1年に2回ふれ合いステージ(伊万里市の福祉施設が歌や踊りを披露したり、作品展示をする。)に参加して伊万里市民の方に見て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	前立腺癌の方病院受診は、家族の要望もあり職員が連れて行っている。	自宅に居た時に雇っていた病院で薬の調整中なので、認知症の治療をかかりつけの病院でしたいと家族からの希望があり、その病院にお連れしている。	かかりつけ医への受診は、職員が付き添い情報共有されている。往診対応や24時間体制で適切な医療が受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日朝のバイタルを母体の病院にFAXしその情報を主治医に報告して、11:00頃看護師が毎日容態観察や点滴等を施行している。	毎日朝のバイタルを母体の病院にFAXしその情報を主治医に報告して、11:00頃看護師が毎日容態観察や点滴等を施行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、洗濯物を取りに行ったり、MSWを情報を共有し退院の時期を打合せしたり、主治医と病院の主治医の連絡を取っている。	入院された時は、洗濯物を取りに行ったり、MSWを情報を共有し退院の時期を打合せしたり、主治医と病院の主治医の連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を話し署名されている。ターミナルが近くなると主治医と家族が話し合い今後の方針を決め、それに従って支援をしていく。	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を話し署名されている。ターミナルが近くなると主治医と家族が話し合い今後の方針を決め、それに従って支援をしていく。	希望に応じて見取りを行なっている。契約時に、重度化した場合の指針を説明し同意を得ている。また、看取り・急変時の対応についてその都度、書面で説明と同意を得て医師を始め、チームで支援を行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異物除去法やAEDの訓練を職員全員で行った。	異物除去法やAEDの訓練を職員全員で行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練も消防署から来てもらい今年度は、スモークの体験をしアドバイスをもらったり、原発の訓練も行い、反省点を話し合い、改善した。火災の時はホームの前の方協力で庭を避難場所に行っている。	消防訓練も消防署から来てもらい今年度は、スモークの体験をしアドバイスをもらったり、原発の訓練も行い、反省点を話し合い、改善した。火災の時はホームの前の方協力で庭を避難場所に行っている。	年2回、夜間想定やスモーク体験等、火災避難訓練を行い、消防団の協力体制も築かれている。原発の訓練や他の災害対策も検討されている。しかし、地域の方の訓練参加はまだなされていない。	地区の代表者の参加から、地域の方への参加を促し、地域との協力体制がさらに進むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様が話しやすい方言を使ったり敬語を使ったりしてその方に合った会話をしている。難聴の方はジェスチャーや筆談をしている。	本人様が話しやすい方言を使ったり敬語を使ったりしてその方に合った会話をしている。難聴の方はジェスチャーや筆談をしている。	一人ひとりに応じた声掛けや対応を行い、プライバシーを損ねないよう支援されている。排泄時はトイレ内にカーテンをしプライバシーへの配慮と見守りができるように工夫されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎週月曜日にヤクルトさんが来るので、自分で選んで好きな物を飲んでおられる。	日頃食べたい物を聞いたりして、なるべく提供できる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仲が良い方同志ソファに座って一緒にテレビを観たり、話をしておられる。居室で昼寝をされたりして自分のペースで過ごされている。	仲が良い方同志ソファに座って一緒にテレビを観たり、話をしておられる。居室で昼寝をされたりして自分のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方でも、季節感が無い方は職員が衣替えを行っているので、好きな服を着られている。	元気な頃から行きつけの美容室に娘様と一緒に出かけられ、帰りには好みの食事を外食されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助以外の方は全員と一緒に食事をしている。食後にお盆拭きをして下さる。	介助の方以外は、皆様一緒に食べる始めるが、食べるのが遅い方が食べ終わるのを待って、一緒にご馳走様を言う様にしている。	ソフト食の方へは、素材が見て分かるように形を工夫されている。ホットケーキやぜんざいを家族と一緒に作る機会を設け、楽しみなものになるように工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3回の食事摂取量の記入と10:00と15:00の水分の補給、入浴後の水分の補給を行って情報の共有が出来ている。	1日3回の食事摂取量の記入と10:00と15:00の水分補給、入浴後のポカリを飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方も言葉かけを行って必ずして頂いている。(忘れられるので)出来無い方は職員が行っている。月1回の訪問歯科衛生士に来てもらっている。	食後の口腔ケアは必ず行っているし、出来ない方は、職員が行っている。インプラントの方は月2回の訪問歯科衛生士に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿パットを使用され介助がいる方も、その方の状況に合わせてトイレ誘導を行い、排泄されていない時は、ゆっくりトイレに座って頂き出来るだけトイレで排泄してもらうようにしている。	尿パットを使用され介助がいる方も、その方の状況に合わせてトイレ誘導を行い、排泄されていない時は、ゆっくりトイレに座って頂き出来るだけトイレで排泄してもらうようにしている。	排泄チェック表をつけたり、仕草や表情でタイミングをみて誘導し、できるだけトイレで排泄できるように取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多くとりれた食事や起床時にセンナン茶を飲んで頂いたり、10:00に牛乳やヨーグルトを食べて頂き自然には便が出来るように工夫している。	毎日の排便のチェックと運動や昼食後にはゆっくりトイレに座って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がえられる方は無理に言わず、次の日等にまたお誘いしたり、清拭や足浴を行っている。	拒否がえられる方は無理に言わず、次の日等にまたお誘いしたり、清拭や足浴を行っている。	希望時間に応じて週4回～5回入浴することができる。入浴を好まない方へは、言葉掛けを工夫し、時間や日にちを変更するなど無理強いないように努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝たきりの方も起きておられる時は、大好きな音楽を掛けている。元気な方は食事が済んだら、部屋で新聞を読んだり塗り絵をしで過ごしておられる。	夜中に、よくトイレに行かれる人はトイレの側の部屋にしたり、夜間壁を叩かれる方のベットを壁から離したりして工夫したり、部屋の移動も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の看護師の容態観察と、毎朝のバイタルと体調が良くない方の夜間の状況を毎朝Faxを加茂医院にしている。週1回の主治医の訪問時に相談して内服等もこま目に変えている。	毎日の看護師の容態観察と、毎朝のバイタルと体調が良くない方の夜間の状況を毎朝Faxを加茂医院にしている。週1回の主治医の訪問時に相談して内服等もこま目に変えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分で新聞をとられており、自分の部屋で毎日楽しみに読んでおられる。家族との外出や読み聞かボランティア・書道にも参加されている。	洗濯もをたたんだり、ゴミ袋に名前を書いて下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の夏祭りに参加されたり、外出時にケーキを食べに行ったり、娘様と外出されている。	行きつけの美容室から迎えに来てもらい希望がある時に行かれる。	美容室や散歩など、希望に応じてその都度支援されている。季節の花見や花火大会など、計画的な外出もされており、家族や地域の方との協力しながら取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトさんに来てもらい自分の好きな物を選んでおられる。	該当者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、家族に電話をされたり、家族からの電話があると楽しそうに話されている。	職員が電話を取り次ぎ話しやすい環境を作ったり、希望がある時は、職員が家族に電話をし、本人様の希望を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるように月毎に掲示を変えている。トイレは仕切りのカーテンをし、プライバシーを守っている。浴室も洗面所と脱衣所の間にカーテンをしている。冬と夏のカーテンも変えている。	季節を感じるように月毎に掲示を変えている。トイレは仕切りのカーテンをし、プライバシーを守っている。浴室も洗面所と脱衣所の間にカーテンをしている。冬と夏のカーテンも変えている。	季節感のある絵や飾りがあり、食堂は窓も多く、明るく清潔な空間で居心地良く感じられる。温度や湿度も確認し適切な環境づくりに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全個室であるが、入居者様同志で部屋を尋ね話をされている。	ソファでテレビを観て楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が希望される物は、タンス・仏壇・テレビ等も置かれ居室でゆっくり過ごされる様にしている。	娘様がお母様の過ごしやすようにチェストや鏡、テーブルセンターを飾り家に居た時の様にされている。	室内には習字や写真が飾られ、使い慣れたものを持ち込み、居心地良い居室づくりをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーだし、歩行が不安定な方も時自力で歩行して頂き、常に見守りをしている。箸を持てる方は出来る所まで自分でして頂き疲れて無理になってきたら、介助を行っている。	排泄が自立されている方も、拭き残しが無いか確認して清潔に過ごしておられる。		